

第2次計画を振り返り、未来を考える

ニラのほ場（福寿野地内）

食育・地産地消を推進するために

令和3年3月に策定された第2次舟形町食育・地産地消推進計画では、「舟形の豊かな恵みで心とからだを育む健康づくり」をスローガンに食育・地産地消を推進してきました。その結果、関係団体、関係機関の協力のもと、小・中学校における食農教育や町内農業者が食材を提供する仕組みの構築、学校給食における地産地消の推進や農家の顔の見える学校給食の実現、さらに、舟形の食材から愛郷心を育むための「日本一のおいしい給食食育推進事業」の実施に繋がっており、食と農への関心は高まりつつあります。



「日本一のおいしい給食食育推進事業」では給食をとおりて郷土愛を育む食育に取り組んでいます。

【図1】家族揃っての食事（共食）



「共食」には、コミュニケーションが増える、規則正しい食事に繋がる、食への関心が高まるなど、さまざまなメリットがあります。

変化する食生活と新たな課題

近年、私たちの食生活は、家族揃っての「共食」から大きく変化しています。核家族化や食の多様化、ライフスタイルの変化などが進む一方で、多くの課題が顕在化しています。【図1】町が実施した「食」と「農」を巡る現状に関するアンケートの結果によると、朝食摂取率は、小学生は83.1%、中学生は78.8%であり、約20%の児童・生徒が朝食を欠食しています。その理由として、「食欲がない」「おなかがすかない」が多く、生活リズムの乱れなどが懸念されています。【グラフ1】

これまでの結果と未来への目標

アンケート結果から課題が見える一方で、改善された点もあります。令和7年度の生活習慣病予防のための食事や運動を実践している方の割合は、令和2年度と比較して約15%増となりました。【グラフ3】

さらに、令和7年度の給食における県産農産物の割合は、令和2年度より約5%増となりました。【グラフ4】

第3次舟形町食育・地産地消推進計画では、課題と改善点を踏まえ、顔の見える「農業」で食を支え、「食」が健康を支え、そして「健康」で生き生きとした生活がずっと続くことを目指していきます。

バランスのとれた食事をしよう

また、食事のバランスに関する課題があることも分かりました。家庭で主食・主菜・副菜・汁物を基本としたバランスのとれた食事をしている方の割合は、小・中学生は60.2%、20歳以上は77.1%でした。【グラフ2】

【図2】バランスのとれた食事の例



「食」と「農」を巡る現状に関するアンケート調査結果

(令和7年7月実施、有効回答総数547件)

